

### 第3章 評価の結果に対する対応方針

分科会の評価結果を受けて、国土技術政策総合研究所では以下のように対応する。

#### ■平成25年度第6回国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第一部会）

##### ・グリーンITSの研究開発（事後評価）

評価結果を踏まえ、本研究の成果が有効活用されるよう、引き続き、本省道路局、地方整備局、大学、高速道路会社、民間企業等と連携して、車線利用適正化システムやカーブ進入危険防止システム等の新規システムについて、現地での実証と改善を踏まえ効果をアピールすることで、実用化（含む検証）と普及につながるよう努めて参りたい。

また、サグ部の渋滞改善に向けた具体策の検討、ITS技術の課題の抽出と改善方法の検討、社会情勢の変化に対応するITS技術のカスタマイズの検討や従来技術との比較等を含めたITSの効果把握方法などご指摘いただいた事項についても、ご指摘の趣旨に十分留意して、現在進行中のプロジェクト研究「道路インフラと自動車技術との連携による次世代ITSの開発」などの研究を進めて参りたい。

##### ・3次元データを用いた設計、施工、維持管理の高度化に関する研究（事後評価）

3次元データは、その用途によって作り方や作成コストが異なる。評価結果を踏まえ、本成果を有効に活用できるように、現場導入や現場試行の状況に関するデータを蓄積し分析することを通じて、3次元化の効果とコストのバランスを調査する。また、現場のニーズに沿った3次元データの作成と運用がなされるよう、3次元データのデータ作成基準や運用ガイドライン等、施策をすすめるための具体的な基準類を策定し、環境を整備していく。さらに、自治体への導入普及を見据えて、直感的かつシンプルに構造物の状態を把握・管理できる3次元可視化技術、コストをかけなくても3次元モデルを簡易に作成する手法を検討していく予定である。

これらの研究成果については、CIM制度検討会等を通じて本省（大臣官房 技術調査課、総合政策局 公共事業企画調整課、水管理・国土保全局 治水課、道路局 国道防災課）と連携を取り、施策化を促進し、各地方整備局や事務所と一体となりながら、現場への導入と普及、適用範囲の拡大を目指して検討を進めて参りたい。

技術的な検討にあたっては、情報化施工推進会議やCIM技術検討会等を通じて民間と連携を取りながら、無理なく3次元化のステップアップが図れるとともに、特定の業者のみが実施できるものではなく、一般の業者が実施できる技術の標準化を目指して検討を進めて参りたい。

導入と普及に際しては、ご指摘にあるとおり、システム開発が重要であることから、OCF（オープンCADフォーマット評議会）やIAI日本（International Alliance for Interoperability Japan Association）、日測工（日本測量機器工業会）等を通じてソフトウェア開発者との意見交換をおこない、システム開発をフォローしていきたい。

#### ・社会資本 LCA の実用化研究（事後評価）

評価結果を踏まえ、得られた成果を活用しながら、今後とも本省との連携を図りつつ、二酸化炭素排出量の手引き（案）等も用いながら、技術開発のスパイラルアップにつながる社会資本 LCA の普及に向けて取り組んで参りたい。

今後、その他ご指摘いただいた事項についても十分留意して、必要な機関との連携を図りながら、原単位の更新や新技術への対応といった社会資本 LCA 手法の精度向上や同手法を用いた道路建設に伴う二酸化炭素排出量の簡便な予測手法の確立等に向けた研究を進めて参りたい。

#### ・美しいまちづくりに向けた公共事業の景観創出の効果分析に関する研究（事後評価）

評価結果を踏まえ、本研究の成果が景観実務において積極的に活用されるよう、土木学会でも公表したところであるが、本省と連携を図りながら、研修や講習会等の開催による成果の周知・普及や、地方整備局及び自治体における成果の適用に取り組むとともに、「国土交通省所管公共事業における景観検討の基本方針（案）」等の景観施策・制度に研究成果を速やかに反映するべく、関係部局との調整を進めて参りたい。

本研究における『まちづくり効果』は、「地域住民の生活の質の向上」に資する公共事業が「地域のまちづくりに及ぼす効果」のことを指しており、安全安心面についても配慮するものである。成果の普及にあたっては、単に「見た目」の美しさのみを扱うものではないことへの理解が得られるよう努めて参りたい。

今後は、定量的評価の視点も踏まえつつ、より多様な事例を対象として景観創出の効果分析を深めていくことによって、「『まちづくり効果』を高める公共事業の進め方（案）」の適用性及び実用性の向上を図って参りたい。また、ご指摘のあった公共事業に関連して誘発される各種民間の土地利用、建築活動が景観に悪影響を及ぼすことを防ぐ仕組み、合意形成については、美しいまちづくりを実現する上での重要な視点であり、引き続き研究に取り組んでいくこととしたい。

その他に、地域・自治体との協働方法・方法論の具体化など、ご指摘いただいた事項についても、ご指摘の主旨に十分留意して、今後の研究を進めて参りたい。

#### ・非構造部材の安全性評価手法の研究（事前評価）

（評価時課題名：非構造部材と構造部材の統一的な安全性評価のための設計規範の研究）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、本研究は非構造部材の安全評価手法を確立することが目的であり、非構造部材と構造部材の安全率等を統一する意図ではないことに留意し、課題名を「非構造部材の安全性評価手法の研究」に変更する。また、道路橋設計基準の部分係数化や建築分野等他分野の研究状況に関しても情報収集を行い研究成果への反映を図る等、効率性・有効性について適宜改善しながら研究を進めて参りたい。

その他、維持管理の確実性及び容易さの考慮等、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

## ■平成 25 年度第 7 回国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第三部会）

### ・沿岸域の統合的管理による港湾環境の保全・再生に関する研究（事後評価）

評価結果を踏まえ、本研究で得られた環境データの積極的活用や市民参加型イベントが有効に活用されるよう、国・地方自治体等の行政機関、民間企業、一般市民、大学と連携しながら取り組んでいくこととしたい。特に、海の再生プロジェクトの再生行動計画に本研究成果を反映させ、海の再生プロジェクトのさらなる推進につながるよう努めて参りたい。

多種多様な環境データの収集方法の検討、および在るべき方向への改善方策の検討など、ご指摘いただいた事項についても、ご指摘の主旨に十分留意して、今後の研究を進めて参りたい。

### ・物流の効率性と両立した国際輸送保安対策のあり方に関する研究（事後評価）

評価結果を踏まえ、本研究の成果が有効に活用されるよう、地方整備局職員や港湾管理者職員等を対象とした危機管理研修の開催や各地域の協議会等への助言など、現場の人材育成に向けた取り組みを支援するとともに、港湾における事業継続計画等の危機管理能力を高める手法について更に研究を進めて参りたい。また、シミュレーション分析手法については、実務者の利用を想定し更に改良を進めて参りたい。

### ・作用・性能の経時変化を考慮した社会資本施設の管理水準の在り方に関する研究（事後評価）

評価結果および指摘事項を踏まえ、本研究の成果が各地方整備局等の実際の事業で活用できるよう、本省港湾局や地方整備局等と引き続き連携しながら、本モデルを実港湾の事例に適用してモデルの検証や詳細な分析を行い、本モデルの実事業への適用に向けてモデルの更なる改良を図っていくこととしたい。また、本モデルを防波堤の供用期間の延伸や予算制約がある場合にも適用できるように、さらに研究を進めて参りたい。

本研究を世界的な評価に結びつけられるように、海外への発信を行っていく等、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、今後の研究を進めて参りたい。

## ■平成 25 年度第 8 回国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第二部会）

### ・住宅種別に応じたエネルギー消費性能評価法の開発（事後評価）

評価結果を踏まえ、本研究の成果が有効に活用されるように、省エネルギー改修ガイドライン及び改修効果の予測プログラムを早期に公表できるように努めて参りたい。さらに、本省住宅局と連携しながら、長期優良住宅や品確法など、省エネルギー改修に関する施策における評価方法等に、本研究成果を適切に反映させるよう努めて参りたい。

その他、評価委員会でご指摘いただいた、省エネルギー改修を主目的とした場合の改修の進め方の整理、改修の動機に関する調査等についても、今後、設計者向けの省エネルギー改修のガイドラインを作成する過程において検討を重ね、改修実施事例や実務者の意見をフィードバックし、作成するガイドラインがより柔軟かつ現実的な想定をおいた内容となるように検討を継続したい。